

令和5年度 第2回三島市図書館協議会 会議録 [概要]

1 開催日時

令和6年2月21日（水）午後1時30分から午後3時40分まで

2 開催場所

生涯学習センター5階 スタッフ室

3 出席者

(1) 委員（順不同）

段 千恵子、白井 由美子、竹山 美奈子、小川 高明、梶 一純、西島 真美 計6名

(2) 事務局

小塚教育長、鈴木教育推進部長、加藤文化振興課長、渡辺館長、下館館長補佐、
中島館長補佐、市川主幹、木本主任司書、越沼主任司書、菊地主任

4 会議の公開・非公開の別

公開

5 傍聴人の人数

1人

6 会議の内容

(1) 開会

(2) 教育長挨拶

(3) 会長挨拶

(4) 議事

① 令和5年度図書館利用状況について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

（ 委 員 ）	図書館のホームページに不正アクセスがあったということで驚いた。これは、どういう目的で行われたのか。
（ 事 務 局 ）	目的は定かではないが、自治体の URL に対する他国からの不正アクセスというのは、珍しいことではないようだ。図書館では、毎月のアクセス数を確認しているため、アクセス数の不自然な増加に気づいたが、気づかない場合もあるのではないかな。
（ 委 員 ）	それによって、実害が出ているということはないのか。
（ 事 務 局 ）	今のところはない。
（ 委 員 ）	「学校訪問サービス」「放課後児童クラブ訪問サービス」では、どのようなことを行っているのか。
（ 事 務 局 ）	「学校訪問サービス」は小学校2年生と4年生を対象としており、申し込みのあった学校に司書が出向いて、1時間の中でブックトークと読み

	聞かせを行うもの。「放課後児童クラブ訪問サービス」は、申し込みのあった放課後児童クラブで、読み聞かせと簡単な工作を行っている。
(委 員)	教育研究会図書班会の研修会を生涯学習センターで実施した際、図書館の司書による講義を組み込み、ジント号や企画展示なども見せてもらい、先生たちに図書館を知ってもらおう機会を設けた。ブックトークには本を紹介する司書の思いが込められており、中学生が人生観を得る機会にもなるように感じた。
(委 員)	様々な年代の方々が、本を通して豊かな時間を過ごしていただければよいと感じている。

② 令和6年度事業計画（案）について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

(委 員)	図書館講座について、昨年に参加してとても良かったが、遠方の方もいらっしゃるのでは、ここまで来るのが大変だと感じる。会場とオンラインのハイブリッドで実施するのはなかなか大変なようなので、オンラインだけで実施する講座は考えられないか。
(事 務 局)	オンラインは有効な手段だが、実際に図書館に足を運んでいただきたいという気持ちもある。今年度もハイブリットで実施したが、オンラインの参加者数は伸びなかったため、研究が必要だと感じている。
(事 務 局)	前回、白井副会長より、ハイブリット開催の際のオンライン参加の割合についてご質問をいただいていたので、この場で回答させていただく。令和3年度の1回目は36.2%、2回目は33.8%で、今年度は14.8%だった。新型コロナが5類となり、外出する方が増えたことが要因のひとつと考えられる。来年度は、一度はハイブリットで開催したい。
(委 員)	説明の中にあつた「資料ガイド」とは何か。
(事 務 局)	講座を実施する際には、関連資料の紹介のため、A4両面刷りのパンフレットを作成している。講座の直後は、企画展示として資料をまとめて配置しているが、本来の配置場所などを紹介することで、企画展示が終わった後も手に取っていただけるよう工夫している。
(委 員)	図書購入の予算規模はどのくらいか。以前、比較的高額な本を自分で購入したら図書館でも所蔵していた、ということがあったが、購入する本はどのように決めているのか。
(事 務 局)	予算規模は、ここ数年は3千万円程度である。
(事 務 局)	毎週、冊子となって届く新刊情報を参考に、司書が分野を分担して選書している。出版社にみはからいを依頼することもある。書評も意識して

	<p>チェックしている。個人では費用を捻出しにくいと考えられる本や、資料保存の観点なども考慮しつつ選定している。最終的には、選書会議を開催し、皆で試行錯誤しながら決定している。大きな図書館のほうが蔵書数が多いため、専門的な資料の数も増える傾向にある。</p>
(事務局)	<p>発行から6ヵ月以上経過しないと相互貸借を行うことができないため、利用者からのリクエストに応じて購入する場合がある。そのため、司書が選書しないような本が入ってくることがあるし、同じようなテーマのリクエストが重なることもある。今後も、利用者の興味関心との兼ね合いをみながら選書していきたい。</p>
(委員)	<p>中郷分館との連携に意欲的に取り組んでいきたい。また、他校にも広げていけたらと考えている。</p>
(委員)	<p>講座のハイブリット開催の話があったが、デジタル時代に伝達する方法があまりないように感じる。牧之原市の図書館は、Instagramで情報発信を行っている。Instagramやfacebookなどで、子育て世代に情報が届くようにすれば、オンライン講座の受講者数は増えると思う。内部のデジタル化を進めていても、デジタル世代の方々にデジタルで情報を伝えるという部分が弱いように感じる。デジタル世代は、ホームページをわざわざ見に行くということをしなない。</p>
(委員)	<p>Xを始めたようだが。</p>
(委員)	<p>Xは、拡散はするが、本をもっと読んでほしいような利用者層ではない。メディアによって利用者層は変わるので、Instagramやfacebookのほうが効果的だと思う。</p>
(委員)	<p>オンライン受講者の承諾を得て、お知らせをメールで送るというようなことはやらないのか。</p>
(事務局)	<p>検討させていただきたい。</p>
(委員)	<p>参加者にリピーターになっていただくのもひとつの方法だが、本を読まないような方々に裾野を広げたいという試みだと思うので、Instagramやfacebookで情報を広く流せばよいのではないのか。</p>
(事務局)	<p>今年度の第1回図書館講座「徳川将軍と富士山」の参加者に、この講座を何で知ったかを聞いたところ、図書館内のポスターと広報みしただけで約9割を占めていた。</p>
(委員)	<p>年齢層はどのくらいか。</p>
(事務局)	<p>60代から70代が中心。</p>
(委員)	<p>広報みしまを読まない若い世代に周知するには、Instagramやfacebookが有効。</p>

(事務局)	30～40代の参加者が中心の「子どもと本の講演会」でも、図書館内のポスターと広報みしまで知ったという方が多かった。
(委員)	Instagramやfacebookは、ホームページを充実させるよりも、わりと気軽に始められるので、若い職員がいたら検討されてもよいのでは。もともと本に興味がある方には、ポスターや広報の活用によってリーチされていると思うが、講座の内容によっては、紙媒体ではリーチしにくいところに、本離れ・活字離れしている方々を呼び込むチャンスがあるのかなと思う。牧之原市のInstagramは、まだフォロワーの数も少ないが、展示の様子なども写真で紹介されており、これを見ただけでも、図書館に足を運んでみようかという気持ちになるように思う。
(事務局)	1月に実施した図書館講座では、SNSを見て参加された方が6.5%あり、50代の参加者が増えた。Xを始めたのがこの1月なので、少し様子を見させていただきたい。
(委員)	Xは、10～20代が拾いやすいかもしれない。
(委員)	せっかくの講座なので、皆に周知できればよいと思う。

③ 絵本のまち三島推進事業について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

(委員)	絵屏風は、よくできているようで、よく分からない。デフォルメしすぎているように感じる。
(委員)	「思い」をイメージ化したものだと思っ取っている。
(委員)	絵屏風自体は、とてもおしゃれでよい。
(事務局)	現在行っていることから、今後行う予定のものまで盛り込んであるが、こういう街にしていきたいという思いが詰まりすぎてしまっているかもしれない。
(委員)	実現するのが難しいものもあるかもしれないが、これからが楽しみ。
(事務局)	事業を継続していくなかで、様々な課題をクリアしていきたい。
(委員)	有田川や高崎のような先進事例もある。絵本に興味のない人もおり、誰にでも受け入れてもらうというのは、なかなか難しいと感じる。
(委員)	絵本を活用したまちづくりというのは、自分には想像ができない。
(委員)	絵本とウェルビーイングの概念は合うように思う。いろんな切り口で実施してもらえると、視点が広がる。
(委員)	雰囲気はよく分かるが、初年度の段階で予算がどれくらいとか、初年度にどこをやるのか、初年度に予算がないのであれば、現行の活動を整理して、それを知らない人に伝えていただくだけでも「よく考えたら、

	三島市は絵本のまちだね」という印象につながるのでは。子どもや住んでいる方々が中心の「絵本のまち」であってほしい。初年度の具体的な計画を、次回、教えていただきたい。 絵本の原面をこんなに見ることのできる街はない。興味のない方に気づいていただくことが目的かな、と思う。
(委 員)	絵屏風は、今後どのような形で配布していくのか。
(事 務 局)	民間団体等に協力を仰ぐ際の説明用として活用していく。市民からも欲しいという声があるので増刷する。増刷分の配布方法については、今後検討する。
(委 員)	何部くらい増刷するのか。
(事 務 局)	初刷は 500 部だったが、図書館と文化振興課でそれ以上の数を刷りたいと思っている。
(委 員)	絵屏風は、表現方法にまとまりがないので、何がしたいのか、どこまでが実際にやることで、どこからが「思い」なのかが分かりづらい。市民に「絵本のまち」を広報していくためのツールとしては、あまり向かないのかなと思う。
(委 員)	気持ちを伝えるものとしては、とても素敵だなと思う。
(委 員)	先ほど話があった 3,000 万円の予算から絵本を購入するのか。
(事 務 局)	絵本のまち三島事業としては、別に予算を確保している。

④ その他

事務局報告及び質疑応答・意見は次のとおり。

(事 務 局)	前回、皆様からご意見をいただいた漫画の収集について、県内状況と今後の方向性についてご説明差し上げたい。〔配布資料に基づき説明〕
(委 員)	作業手順書とはなにか。
(事 務 局)	収集方針とは別に整備している内規のようなもので、そこに漫画についての記載がある。
(委 員)	漫画を入れるとなると、手順書の見直しが必要ということか。
(事 務 局)	お見込みのとおり。
(事 務 局)	手順書には、収集方針に従って選書する旨を規定している。学習漫画のうち、日本史・世界史、もう少し広げるなら伝記を取り扱う、等といった細かい取り決めは、収集方針そのものではなく、手順書に記載する。判断に迷うものは随時出てくるので、そのつど選書会議にかけて判断し、必要に応じて手順書に反映していく。

(委 員)	「風の谷のナウシカ」は、映画よりも原作のほうが壮大な物語なので、入ったらいいなと思う。**委員の学校には、漫画はあるのか。
(委 員)	「ブラックジャック」「ドラゴン桜」などを入れていたように思う。
(委 員)	基準はあるのか。
(委 員)	特に設けてはいない。
(委 員)	**委員の学校はどうか。
(委 員)	学習漫画はある。学校図書館としての教育的効果という視点をふまえながら、司書と相談しながら決めている。
(委 員)	先日の視察ではLLブックの話なども出たが、文字を読むのが苦手な子が、学習漫画や将来の仕事に関する漫画に触れることで、苦手意識が払拭されればいいなと思う。基準をつくることは難しいが、「これは」というものがあれば良いなと思う。
(委 員)	学習漫画のあたりから始めて、様子を見ていけたら良い。
(委 員)	家庭文庫では、伝記ものや「〇〇のひみつ」という漫画が人気。

(委 員)	書籍の発注はひとつの業者に行っているのか。
(事 務 局)	装備の関係があるので、多くは納入組合を通して図書館流通センターに発注している。
(委 員)	地元の書店からは購入しないのか。
(事 務 局)	市内の書店は文盛堂だけだが、そこから購入することもある。
(委 員)	説明の中に、職員から『押し絵本』を募っているとの話があったが、一般に公開しないのか。
(事 務 局)	先週から始めたばかりなので、今後、検討していく。
(委 員)	各学校で、朝の読み聞かせの本選びに困っているという話なども聞くので、図書館からのインプットがあればよいと感じている。
(事 務 局)	「読み聞かせ講座」や、読み聞かせのためのブックリストも活用していただければと思う。

(5) 閉会